

# 大東亞戰爭必勝完遂

## 幼児の母



昭和十八年

五月

### 幼稚園と母の時間

戦時下、母の時間は忙しきで、一ぱいです。家の中のことにしても、物の便利のふんだんな場合にくらべて、時間のかゝることが多くなりました。それに加へて、隣組のこと、町會のこと、その他、時間に關してのいろいろのこと、家の外への用務も多くなりました。しかも、その間で、母の時間を最も用ゐなければならぬのが、我子の爲であることに變りはありません。

我子が幼稚園に通ふやうになつて、この忙しい母の時間は、一日幾時間と餘裕の出來た筈です。工場勤務に忙しい母達のために、工場托兒所があり、田植、刈入れの多忙季節の農村に農繁期托兒所が開かれる理由には、母の時間へのたすけといふことが、はつきりといふことが、主の目的になつてゐますが、母の時間への都合のいい結果はいふまでもありません。

その、幼稚園によつて、すけられてゐる母の時間が、どう有利に、意義深く用ゐられてゐるでせうか。おのづとそうなつてゐることは素よりとして、それが、はつきり意識せられ、こまかに計算せられ、しつかりと活用せられなければなりません。その時間は、我子への勞に托しての時間です。それを、自分のことに利用するだけではなりません。時局への御用に捧げられなければなりません。我子を人に托して、それで得た時間の餘裕を、うか／＼と過したりの子を送り歸したい位です。

### 幼稚園から

○お子さんも、だいぶ幼稚園におなれに  
なりました。ひとりでよく遊ぶといふよりは、みんなとよく遊ばれるようになりました。これでこそ、幼稚園が身につけてきた  
と申すものです。

○入園二ヶ月にもならない今日、幼稚園として、こま／＼とした躰なども、まだきびしくしてはゐません。しかし、見てゐますと、ほんどうに感心する程、我まゝをせず、だらしない亂暴もせず、立派にちやんとしてゐられます。仲間同志といふことは、こゝろに、なだらかに訓練をするものかと、今更思ひます。

○その中で、かわいそうなのは、遅刻をよくしたり、持ちものを忘れたりして、みんなと同じになりにくい子です。入園二ヶ月、もうそろ／＼、初めの熱心と心づかひがゆるまれたかと思ふ家庭の子です。お子さんが、おかわいそうです。その反對に、一日々々行届いて来て下さる家庭の場合、お子さんは、仕合せだと思ひます。